

9 月行事・琵琶湖疎水～蹴上地区～歴史探訪の御案内

2023.9.15

企画委員会

「琵琶湖疎水」は、第一疎水が開通して 130 年、その歴史的意義は、明治維新後衰退した京都復興策の一大プロジェクトとして取り組まれ、「近代国家日本」を世界に示したこと。その後の疎水を活用した水力発電や水道事業は産業を大きく発展させ、今も現役で、京都市民への水の供給や水力発電、観光文化資源として活用されていることにある。令和 2 年日本遺産に登録された。

今回は琵琶湖疎水・蹴上地区を歴史探訪し近代日本の礎を探ります。また各班企画委員がガイドとして案内する自主ガイド企画です。

記

・実施日：令和5年9月29日（金）

・集合場所、時間：京都地下鉄蹴上駅改札口
1, 2 班 09:50 3, 4 班 10:15 集合

・観察地点：午前・・・琵琶湖疎水記念館、南禅寺別荘群、南禅寺、
昼食 30 分 京都国際交流館、疎水公園（班より異なる）
午後・・・疎水公園（田邊朔郎博士像）、蹴上インクライン、水路閣、
大神宮橋（蹴上船溜まり）、日向大神宮

・解散場所、時間：蹴上駅、班別 14:45～15:15 頃
全長5km、歩行約 4 時間のコース。

・琵琶湖疎水記念館 075-752-2530

疎水記念館は小学生の団体など他の参観者もあり、同時入場者の数に制限があります。1, 2 班は 10:10 入場、3, 4 班は 10:40 に入場します。
班別に学芸員の説明と館内自由見学を交互に行います。見学所要時間は 30 分です。

・雨天時の対応：前日 17 時の気象庁ホームページの天気予報で「京都府南部」
6:00～18:00 の降水確率が 50% 以上で中止

・持ち物：お弁当、飲料、雨具、一部坂道を歩きますので必要な方はストック等

・その他：企画委員の説明による自主ガイド企画です。班別行動になります。
訪問施設、コース順は企画委員が班ごとに工夫します。

歴史散策の主な施設

1. 琵琶湖疎水.

琵琶湖疎水は維新後衰退した京都の活性化の為、近代化復興策として 1885 年に着工。灌漑、水運、発電を目的とした大プロジェクトで、日本初の営業水力発電所の建設などで近代化に大きく貢献した。滋賀県大津市三保ヶ崎から山科、蹴上を超え京都市内に入り、伏見、宇治、大阪への水運も開かれた。



2. 疎水記念館

琵琶湖疎水にまつわるいろんな疑問を解決できる博物館。第一疎水竣工 100 周年を記念として 1989 年開館。琵琶湖疎水の計画と建設の設計図、道具類、ミニチュア模型やジオラマなど模型のほか水力発電に使われたペルトン水車とスタンレー発電機も展示されている。
(ペルトン水車、スタンレー発電機、インクラインドラム室周辺は 8 月から工事中)



3. 蹴上インクライン

琵琶湖疎水による舟運ルートの一區間で当時世界最長の傾斜鉄道(インクライン)。南禅寺・蹴上間。1891 年(明治 24 年)から 1948 年(昭和 23 年)まで実用に供された。

現在は国の史跡として整備され、桜並木の観光スポットになっている。



4. 南禅寺水路閣

琵琶湖疎水の支流を北白川に流すために出来たレンガ造りの水路橋。水路閣の全長は 93.2 メートル。ローマの水道橋を参考に設計されており、建設当時は南禅寺に洋風の橋を建てることに批判も多かったが、今では国史跡に登録されている。サスペンスドラマのロケ地としてもよく使われている。



5. 日向大神宮

社伝によると第 23 代・顕宗天皇の時代(485～487)に、日向国(宮崎)の高千穂の峰から天照大御神の神蹟を勧請し創建したのが始まり。京都最古の宮。応仁の乱により社殿が焼失も、江戸時代初期に再建。「京のお伊勢さん」として伊勢代参あるいは東海道の要所にあることから交通安全祈願で多数の参拝があり、隠れたパワーポイントの一つ。



以 上

探訪施設：琵琶湖疏水記念館 南禅寺 南禅寺別荘群
京都国際交流会館(昼食)
疏水公園・インクライン 水路閣 ねじりマンボ
日向大神宮

